

1 研修テーマ

自ら考えをもち、課題を解決していく子どもを育てる授業
～思考力・判断力・表現力を育てる アントレプレナーシップ教育の推進を通して～

2 テーマ設定の背景と目指す子ども像

R5年度の成果と課題

- 学習課題を工夫したことで、子どもたちが意欲的に課題に取り組むことができた。
- 児童同士が自分たちだけで説明をつないでいくことで、子どもたちの学びの姿勢が高まった。
- 児童同士の関わり合いを取り入れたことで、よりよい解決法を見つけ出すことができた。
- 思考判断を促す図絵などの具体物を用いて支援を行ったことにより、ねらいを概ね達成できた。
- 振り返りなどをもとに、子どもたちの思いを大切にしたい授業づくりをしたことで、課題に進んで取り組もうとする意欲が高まった。

△子ども思考に沿った授業展開

(追求課題(◎)を子どもたちからうまく引き出す 子どもの考えから、問いを導く)

△単元を見通した授業づくり

◇地域の特色(ヒト・モノ・コト)を活かした教育活動を全学年通して体系的に進める。

(地域人材や公民館を活用し、自らの考えの実現や課題の解決を体験活動を通して学習する。)

◇既存の学校行事を核として総合・生活を柱として各教科を関連させ、教育プログラムを編成する。)

(アントレプレナーシップ教育推進事業(文科省補助事業)として、教育プログラムの開発に取り組む。)

★R5年度 NRT 学校全体偏差値平均 国語 52.5 算数 55.0 (4月実施)

目指す子ども像

自ら考えをもち、課題を解決していく子ども

吉田小学校教育のキーワード

楽しむ学校 Fun⇒ Enjoy

新潟県令和6年度「学校教育の重点」

児童生徒が主役の授業づくりの推進と確かな学力の育成

「単元構想」「対話のある学び」

「ICTの活用」

中越教育事務所

「授業づくりリーフレット2024」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

「ICTの活用」

児童の実態

◎課題に真剣に向かって誠実に努力する。

◎アドバイス・教え合いは、相手に思いやりをもって伝えている。

◎学力の数値は全国・県に比べよい。

▲ワークテストの結果を見ると、「思考力・判断力・表現力」に弱さが見られる。

▲与えられた課題は真面目に取り組むが、自分から課題を見つけ、解決することが難しい。

▲初めての課題に対して、既習を活用する力が弱い。

中学校区教師の願い

◆家庭学習を充実させてほしい。

◆自己決定・自己判断してほしい。

3 研修の内容

研究主題を達成するために以下の2つの視点から、学校行事を核として総合的な学習の時間・生活科を柱として各教科を関連させた教育プログラムを編成する。

(1) 思考力・判断力・表現力を育成するための学習課題の設定

目的意識、問題意識をもって学習に取り組むことができるように「学習課題の設定」を工夫する。子どもの問いや願いから追求課題を設定・共有することで、子ども自ら課題解決へ向かおうとする気持ちを高めさせる。

〈手立ての例〉

- ・子どもたちにとって必要感のある課題設定かどうか吟味する。
- ・自らの活動の意味や価値を吟味し、その意味や価値を高めるための工夫を凝らす。
- ・ゴールを設定し、ゴールに近づくための活動や理解を深めるための学びの場を設定する。
- ・課題解決のプロセスや、得られた学びを整理し広く発表する。

(2) 思考力・判断力・表現力を育成するための協働的な場面における教師の手立て

「追求する」展開の場面では、自力解決→集団解決と学習が進んでいく。協働的な場面において、全体で考えをより深められるよう、教師が何らかの働きかけを準備しておく。

〈手立ての例〉

- ・ICTの活用
- ・場面に応じたフレームワークの活用（バズセッション、ブレインストーミング、KJ法、等）
- ・意思決定を導くための調査に基づく資料作り（エビデンス）
- ・かかわり合い、教え合いの場
- ・個及び集団でのプレゼンテーション活動

※令和6年度は授業公開及び協議会は計画しない。ただし、各自が教材研究を進めるとともに授業改善に努める。また、管理職及び研究主任が指導者の授業を観察し指導助言を行うとともにOJT形式で各自の実態に合わせた研修を行い、指導力の向上を目指す。

4 アントレプレナーシップ教育推進事業・創立150周年記念事業とのかかわり

(1) アントレプレナーシップ教育推進事業（資料：別紙事業計画書参照）

アントレプレナーシップとは、新たな事業を創造し、リスクに立ち向かう精神・姿勢のことを意味し、英語では、**entrepreneurship**と表記される。「イノベーションを武器として、変化のなかに機会を発見し、事業を成功させる行動体系」または「コントロール可能な資源を超越して、機会を追求する精神」と定義される。近年、日本企業においても、イノベーションをもたらす新たな価値を創出するための思考・行動要素として、アントレプレナーシップが大きく注目されており、起業家育成が我が国の大きな課題となっている。

吉田小学校では、新潟県教育委員会のアントレプレナーシップ教育推進モデル事業（補助金）に申請した。既存の教育活動やカリキュラムを生かしながら、起業家や公民館、企業、地域人材と連携し、従来、個別に行われてきた栽培活動、販売提供活動、研究発表活動等の学習活動を体系化し学習プログラムとして整理することで、学習の効果や指導効率および人材活用の効果を高めようとするものである。

このような実践を今年度の校内研修の柱の一つに位置付け、以下のような内容に取り組む。

- ・指導計画の立案と修正
- ・学習活動の進捗状況の確認
- ・問題点の共有及び解決の工夫
- ・学校全体での組織的な対応に向けた調整
- ・具体的な作業 等

(2) 創立150周年記念事業

周年事業では、記念式典、祝賀会、記念誌の発行の3つの記念事業に加え、児童画廊プロジェクト(済)、

記念 T シャツプロジェクト（済）、横断幕掲揚プロジェクト、記念講演プロジェクト、を実現（成功）させなければならない。そのためには、調査、検討、協議、作業、等の時間と組織体制が必要となる。そこで、今年度は校内研修の時間の一部を記念事業の推進にあて、以下のような内容で実施し、円滑な事業推進体制を構築する。

- ・各部会の進捗状況の確認
- ・問題点の共有と解決に向けた協議
- ・準備、制作、編集作業 等

5 指導力向上・授業改善に関わる研修を支える取組

（1）振り返りの充実

子どもが分かったことを自分の言葉でまとめる（わがとの継続）。教師は子どもの理解の様子を把握し、認め励まししながら、新たな問いを引き出すなど、次の展開のきっかけとする。

振り返りの「わがとも」

わ：分かったこと と：友達から学んだこと が：がんばったこと も：もっと調べたいこと

〈手立ての例〉

- ・学びの振り返りの時間の確保
- ・毎回の授業での学びの振り返りを大切にし、次への意欲と結び付ける。

（2）学級づくりスタンダードプランに基づいた学級づくり

- ・主体的・対話的で深い学びを図る授業づくり
- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ・WEBQUを活用した学級づくり

6月、10月のWEBQU実施後に事例検討会を行う。WEBQUの結果から学級経営の取組を考える場とする。

（3）ICT活用の充実

- ・ICTを活用して取り組む単元を決め、各自で実践する。（教科は問わない。）
- ・ICT機器の活用を工夫する。

（市教委指導主事訪問によるデジタル教科書を活用した授業公開有：期日未定）

（4）家庭学習の充実

○家庭学習「学年×15分間×5日間」が達成できるように指導する。

○年間3回「家庭学習頑張り週間」を設ける。土・日も含めて設定し、確実に達成できるよう支援する。
ビンゴカードやすごろく等、家庭学習頑張りカードを工夫し、目標時間を目指して取り組めるようにする。

＜家庭学習頑張り週間＞

第1回 6月12日（月）～ 6月18日（日）

第2回 11月 6日（月）～11月12日（日）

第3回 2月27日（火）～ 3月 3日（日）

（5）地域人材の活用、体験活動の充実

生活科や総合的な学習の時間等で地域人材を積極的に活用する。また、学習内容や行事等に合わせ、体験活動も積極的に行うようにする。

（6）「吉田の学び」

- 全校児童がA4クリアファイルに入れて保管し、「学習スキル」は掲示する。
- 1学期始めに2～10ページを指導する。（2・3学期は重点を決めて指導）

○家庭学習で活用するよう 11～16 ページを指導する。

6 学校評価とのかかわり

(1) 目指す成果

- 意欲をもち、主体的に課題を追求し、解決する子どもの割合が 80%以上になる。
- 国語・算数のワークテストで、思考力・判断力の得点が期待得点を上回る児童の割合が 80%以上になる。
- 家庭学習頑張り週間の時、「15分×学年×5日」の家庭学習時間を行う子どもの割合が 90%以上になる。
- 家庭学習頑張り週間以外の時、「15分×学年×5日」の家庭学習時間を行う子どもの割合が 80%以上になる。
- 読書の目標冊数を超える児童が、80%以上になる。

(2) 具体的な取組

①授業づくり

- ・児童が「どうしたらいいかな?」「どういう方法があるかな?」と考え、自分の考えを分かりやすく表現し、友達と考えを交流することで自分の考えをさらに深めることができるような課題を 1 単元で 3 回以上設定する。
- ・振り返り「わがとも」の「㊦ (もっと調べたい)」から、次の授業の課題を設定し、授業を実践を学期 3 回以上する。
- ・小規模校のよさを生かした、体験活動や校外学習の設定。
- ・地域人材の活用。

②基礎的・基本的な学力の定着

【テスト実施に関わって】

- ・定期的な習熟テスト
全学年で定期的に漢字と算数それぞれの小テストを行う。小テストを行う日を伝え、子どもたちが目標をもって学習できるようにする。また、3 年生以上は月例テスト (国・算) を行う。月例テストは、テスト範囲を事前に児童と保護者に知らせる。
- ・ワークテスト前にプレテストに取り組む。
- ・ワークテストで、学年平均点が期待得点を下回った単元については、補充、再テストを実施する。再テストの結果も集計する。
- ・Web テストの分析と活用。
- ・NRT や全国学力テストにおいて、結果が良くなかった項目について、宿題や月例テストで取り組むなどして再度行い確実に補充する。

【読書に関わって】

すべての児童が、各学年の目標冊数を達成できるように以下のような手立てを講じる。

- ・全員で図書室に行く時間を設定する。
- ・児童の読書冊数を定期的に把握し、少ない児童に声掛けをする。
- ・児童が本に興味をもつよう、学級独自で読み聞かせなどの読書活動を行う。

③家庭学習習慣の定着

- ・学年に応じた家庭学習カードの工夫と定期的なチェック。
- ・家庭学習頑張り週間 (年 3 回) の実施。

④アントレプレナーシップ教育推進

- ・児童一人一人が課題解決に向け、自ら企画し、準備し、運営する学習活動を展開する。
- ・個人またはグループで学習の成果を整理し、振り返り、発表させる。
- ・地域人材を適切に活用しその成果と課題を報告する。
- ・指導者は年度の学習活動のまとめを行い成果と課題を発表する。

7 令和6年度 研修カレンダー

(○アントレプレナーシップ教育推進事業

□周年事業)

月	日	曜	
4	10	水	○ 研修計画提案・各学年の指導計画の検討・課題の洗い出し □ 横断幕設置準備作業
5	13	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認 □ 運動会記念写真撮影準備
6	10	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認 □ 記念講演会運営確認・準備作業
	24	月	□ 記念誌編集作業：学年のページ作成
7	1	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認（ <u>画像による活動報告①</u> ）
	29	月	□ 記念誌編集作業：10年間のあゆみ作成（分担作業）
8	21	水	郡市教振一斉研修日
11	25	月	○ 大収穫祭の振り返りと反省 ○ 学習のまとめ方についての検討
12	2	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認（ <u>画像による活動報告②</u> ）
	25	水	□ 記念誌編集作業：学年の体験活動ページの作成（体験リーフレット）
3	3	月	○ <u>学習のまとめ発表（プレゼン）</u> ◇ 次年度の方向検討

※式典・祝賀会の打ち合わせ、準備等は別途時間を設定する。

※大集収穫祭の打ち合わせ、準備等は別途時間を設定する。

<資料> 吉田の教師10か条

- 〈主体的な学び〉～学ぶことに興味や関心をもち、学び続ける児童生徒を育てます～
- 1 子どもの「問い」や「思い」を大切にしたい◎【追求課題】を設定します。
 - 2 分かりやすい指示や思考を促す発問をします。
 - 3 教材研究を生かした教材や教具の活用を工夫します。
 - 4 学びの成果や課題に気付く振り返りの工夫をします。
- 〈協同的な学び〉～他者と共に学び、学び合うよさを感じることで児童生徒を育てます～
- 5 児童生徒の考えを広げ、深めるための支援を工夫します。
 - 6 課題や状況に応じて学習形態を工夫し、児童生徒の学び合いを促します。
 - 7 得た知識を活用して、解決に向かう学習を展開します。
 - 8 児童生徒の学習状況を見取り、必要に応じて個別の支援を行います。
- 〈居場所づくり〉～学ぶ楽しさを感じたり、自己有用感を高めたりする児童生徒を育てます～
- 9 安心して発言できる環境を整え、児童生徒の考えや発言を生かして授業を進めます。
 - 10 児童生徒の気付きや学び、行動を児童生徒が認め合う場を設定します。